SJCD Journal

Tokyo 2018

SJCD journal Tokyo 2018

2018年6月3日	第1回例会
2018年7月1日	第1回ステップアップミーティング
2018年9月3日	テクニシャンミーティング
2018年10月5,6,7日	第2回例会（国際歯科大会）
2018年12月2日	ハイジニストミーティング
2019年2月17日	第2回ステップアップミーティング
2019年3月3日	第3回例会

2018 年度 日本臨床歯科医学会東京支部 第1回例会

2018年６月３日（日）都市センターホテル

6月3日（日）都市センターホテル（東京都千代田区）にて2018 年度 日本臨床歯科医学会東京支部第1回例会が開催された。梅雨の間の晴れ間がのぞく中、会員２５０名集まり午前の部２時間に渡り今年７２歳になるスーパードクター山崎長郎先生の講演がはじまった。

山崎長郎先生

ご講演は『術後４０年経過症例』からスタートされた。SJCDコンセプトを持って施術すれば長期維持できることを立証され、ファンクションを裏付ける審美でないと長持ちしないと提言された。
次に、今年２月、88年の歴史がある権威ある学会American Academy of Restorayive Dentistryにて講演された『Keys for Achieving Successful Restoratioons using Digital Dentistry』についてお話され大変わかりやすい難易度別の症例分類を説明された上で、Digital Dentistryに大事なことはドクターのTooth prepであると述べられた。支台歯形成が悪いとデジタルでは読み込みができない。その時にMicro&PiezoPrepを行い、歯質を平坦化することにより精度の高い補綴物を入れることができるの話された。このデバイスが山崎先生自身の身を助けてくれているとお話されていた。
ここで山崎先生が５０代前半頃の形成の写真に注目が集まった。歯肉からの出血がなく素晴らしい形成写真であった。ダイヤモンドバーを用いてハイスピードで形成し、デイテイル（細部）はピエゾでフィニッシュされていた。ピエゾは、マージンの連続性を保つことができ歯肉に当たっても出血しないためスキャンしやすい形成ができ、Micro Prepはロンジャビリティー（長寿）を高めることができると述べられた。そして口唇口蓋裂患者の症例を通じて『矯正医・マイクロサージェリーで歯肉を整えていく外科医・より自然な歯を作る歯科技工士、みんなの力を借りて1人の患者を治していく。各分野のスペシャリストと連携をとりながら治療を行う、これがインターディシプリナリーアプローチである。例えるならば我々はカラヤンだ！』とお話しされた。

次に山崎先生が２０年前に審美修復治療を始めた思い出深いケースをご紹介された。主訴は前歯のホワイトスポットであったが、咬合にも問題が確認でき矯正治療も行った症例である。ブラケットポジションは歯頚ラインに合わせ、ポーセレンラミネートベニア（以下PLV）で修復されていた。PLVは、特にPeriodontal Bio-TypeがThin-Scalloped typeの症例においては有効であると述べられた。
最後の症例としてサージカルガイドを用いたインプラント症例を報告された。ビギナーはより慎重になるのでミスを犯すことは少ないが、実は熟練者やある程度の経験者の方がミスを犯すことが多い。
しかしサージカルガイドは自分を守る為にも使用をお勧めしたいとお話しされた。
ご講演の最後に以下のように纏められた。

・CAD/CAMを利用したMinimal Inversive concept(MI)は歯科分野でさらに進歩し発展するであろう
・より良い印象を取るためには、支台歯を高速タービンで形成したのち、超音波などのバーで仕上げることで良好な支台歯形成でき、補綴物の長期安定に繋がるだろう
・サージカルガイドによるインプラント治療とCAD/CAMによって特徴つけられるデジタル歯科医学はインプラント歯科学において未来を築くだろう

締めくくりとして『歯科を愛し、長く臨床の場にいて欲しい！できればクオリティー高く！！Dentistry is Work of Love! 』と熱いメッセージを学会会員に送り、あっという間の２時間講演は幕を閉じた。山崎先生の歯科医師人生の歴史を聞くことができたことに心より感謝である。

『 Full Mouth Rehabilitation of a Patient with Bite Collapse in the Molar Area Using Dental Implant Prosthetics 』
さいとうデンタルクリニック 斎藤隆輔先生

下顎臼歯部欠損に対しインプラントを用いて咬合再構成した１例について発表された。
地域柄咬合崩壊で来院される患者様が多く、今回の症例のPosterior bite collapseに至る経緯からお話があり、学会のフローチャートに沿って順序だてた治療で丁寧に最終補綴を仕上げていた。
バーチカルストップ獲得のためにインプラントを用い、歯軸・歯頚ラインの不調和は、MTM・CTGにて調整し最終補綴へ移行された。顔貌との調和もとれ患者様の笑顔が戻りとても満足していただける仕上がりになったようだ。ディスカッションでは、舌房を広げる補綴に焦点が集まった。今後の補綴設計に重要なポイントになりそうだ。全てのステップで細かい点まで拘りを持ち治療されている将来有望な斎藤先生の症例発表であった。

斎藤隆輔先生

東京SJCD学術広報委員会　小島将司　山口文誉

『 Full mouth reconstruction of a patient with complicated problems 』
柏木歯科 柏木 了先生

複雑な修復治療に取り組むにあたり重要となるのは全顎的な診査・診断および的確な治療計画のもと最終的な治療ゴールを目指す「シーケンシャルトリートメント」である。今回は、機能的・審美的問題を多く持ち合わせたカリエスリスクの高い63歳女性に対し咬合再構成を行った症例を発表された。患者は、下顎臼歯部欠損によるバーチィカルストップの欠如・下顎の偏位などの機能的な問題、Tooth wearやTooth angulationによる審美的問題も持ち合わせた複雑な状態であった。基礎資料採得から患者固有の問題点を的確に抽出し、綿密に計算された治療計画に従い各ステップを大変丁寧に進められていた。臼歯部の垂直性骨欠損に対しては歯周組織再生療法を適応し、欠損部に関してはGBR法を併用したインプラント治療を用い確実な咬合支持を獲得した上で全顎的治療にあたっていたのが大変印象的であった。

柏木了先生

『上顎側切歯の先天性欠如・ガミースマイルを伴うオープンバイト症例』
医療法人社団Teeth Alignment AQUA日本橋DENTAL CLINIC　綿引淳一先生

綿引淳一先生

近年、包括的歯科治療において矯正治療の重要性は益々高まってきており治療全体の根幹を担っていると言っても過言ではない。今回は、ガミースマイル・上顎側切歯の先天性欠如・ボーンハウジングの不足・歯冠形態異常など様々な審美的・機能的問題を持ったオープンバイト症例に対し矯正・インプラント・ラミネートベニア・歯周組織再生・増生療法など様々な包括的治療を駆使して治療した症例を報告された。様々な治療を総動員し複雑な症例に対し治療にあたられていたが、１つ１つの治療の精度が非常に高く大変素晴らしい症例であった。また、矯正治療後のインサイザルエッジポジションを再現するためにカスタムした咬合器を使用されている点や、矯正治療後に起こる歯肉退縮という問題に対し状態により分類し各々の対処法に対し考察されていた点も大変興味深かった。

【2017年度　SJCD AWARD 受賞者発表】

例会の最後に2017年度 SJCD AWARD受賞者の発表が行われ、
原田会長よりトロフィーが授与された。

SJCD AWARD

「機能と審美性の獲得を目的とした全顎的な修復治療」
加部 聡一 先生
加部歯科医院

HIRABAYASHI AWARD

「 インプラントを用いて咬合再構成した症例 」
坂本 貞樹 先生

東京SJCD学術広報委員会　小島将司　山口文誉

日本臨床歯科医学会東京支部

２０１８年度　第１回ステップアップミーティング

2018年7月1日（日）

お茶の水ソラシティカンファレンスセンター

Pre Session

２０１８年７月１日（日）、お茶の水ソラシティ（東京都千代田区）にて第１回ステップアップミーティングが開催された。
講演に先立ち、参加者の診断力向上を目指したプレセッションが午前中に行われた。プレセッションは歯科医師だけでなく歯科衛生士、歯科技工士が参加し口腔内写真とパノラマX線写真から症例の問題点を抽出し、病因論・治療計画を少人数のグループでディスカッションし発表を行った。

MTMセメントの可能性を感じた一症例

Uke Dental Office　井関真良先生

歯を失う理由の中で破折によって抜歯になる事が多いことから、どのように抜歯を予防するかという考察より症例が始まった。抜髄をすることによってマイクロクラックが入ることよりMTMを用いて覆髄することで歯髄を保護することを提案されていた。症例は５８歳男性。根管治療を行なった歯が痛むという主訴であった。全顎的に根管治療を行われている歯やカリエスによって抜髄が必要な歯が多くあったが、MTMセメントを用いて断髄を行い保存修復し経過を追いながら最終補綴まで仕上げていた。可能な限り歯髄を保護することを中心に考えられた症例であり安易に抜髄をしないことが大切であると考えさせられた。

咬合高径の確保にインプラントを用いた補綴修復治療

藤沢ペリオ・インプラントセンター　　雨宮啓先生

インプラント治療をしてほしいとの主訴の７２歳女性。他院からの紹介患者であった。臼歯部のバーティカルストップが欠如して咬合高径が低下している状態であった。ポイントとしてどこまで咬合高径を挙上していくか検討する際に臼歯部の補綴スペースを確保する位置を仮の咬合高径として初期治療を開始された。インプラントによりバーティカルストップを確保後、セファロ分析によって適切な挙上量を模索されていた。プロビジョナルレストレーションにより経過観察の際に何度も破折を繰り返したため下顎位を再度検討しながら筋肉との調和が図れるポジションまでプロビジョナルを調整されていた。咬合高径と下顎運動の調和というのが非常に難しい症例であったと思う。

エステティックエリアにおけるインプラントのリスクマネージメント

荻窪ツイン歯科医院　町田真吾先生

前歯と奥歯の審美障害を主訴に来院された女性。修復治療の分類より顎関節や筋の緊張もないため顎位には問題ないと判断し既存の顎位での治療を行なった。前歯の根管治療の際に破折を認めたため抜歯を行いインプラント治療を行うこととなったが、その際に前歯部インプラントへの治療ガイドラインを示された。スクリューリテインでの補綴設計を考えて埋入ポジションを熟慮し理想的な形態を想定したため下顎の前歯部にアライナー矯正を行った。インプラント補綴を行う際にディトラマックスを用いて審美的な補綴をされていた。なるべく審美エリアの歯牙を保存することにより複雑なマネージメントを避ける事ができたとのことだった。

特別講演
「硬組織マネージメントの基礎と応用」
Uke Dental Office　宇毛　玲先生

特別公演として硬組織造成について各手順を丁寧に解説しながら症例を供覧された。まずはインプラントポジションの重要性。前歯部では審美性、臼歯部では機能性を考慮したプランニングが必要であると述べられた。欠損部では最終補綴をイメージしたワックスアップよりトップダウンの治療計画を立案する必要があり成功の鍵を握る。また、重要なポイントとしてフラップデザインを考慮することを述べられた。欠損部位によってデザインを考えて行うことで成功率が変わってくるとのことだった。切開については動画を交えながら剥離の仕方や注意するべき点を丁寧に解説された。伸展されたフラップ弁の縫合方法や縫合糸の選択基準もシェーマを用いてわかりやすく解説をされた。素晴らしい技術を惜しみなく供覧され、非常に興味深い講演であった。

Step Up Meetingについて

「より参加しやすいステップアップミーティングになります」

初めてでも、レベルアップを考えている貴方にもチャンス到来です！

- 年２回開催
- 年齢、経験問わず、どなたでも発表しやすい
- ２０分～３０分の発表
- SJCDにおける診査・診断・治療計画を習得
- 会員発表の後は、ベテランDrのプレゼンテーションも
- 勉強会の後は、懇親会で親睦を深める

委員会メンバー
理事（五十音順）
大河原純也、加部聡一、新藤有道、
瀬戸延泰、西山英史、松本邦夫、松尾幸一

委員（五十音順）
伊藤努、構義徳、河合竜志、川原淳、栗原一雄、
坂本貞樹、髙山祐輔、中村茂人、長谷川幸生、林丈裕、武川泰久、李昌弘、
山﨑治、吉田茂治　綿引淳一

さる7月1日、お茶の水ソラシティーカンファレンスセンターにて2018年度第1回東京SJCDステップアップミーティングが開催されました。

午前中の部では前回に続き、全員参加型症例検討グループディスカッションとして「Pre Session」が『明日からの臨床に役立つ読影力の向上を目指して 』に主眼をおき行われました。

午後の本会における会員発表では3名の先生が発表され、最後には「硬軟組織マネージメント基礎と応用 」と題し、宇毛玲先生によるプレゼンテーションが行われ、若手歯科医師に向けインプラント治療におけるリッジオーギュメンテーションの考慮事項から臨床例等を提示していただきながらわかりやすくご講演いただきました。

発表希望、お問い合わせは東京SJCD事務局まで：TEL&FAX03-3400-3482

「MTAセメントの可能性を感じた一症例」

７年ほど前にSJCDに入会させて頂いた当時は、演者の先生方が何を言っているかも何をしているかも解らず、その舞台に自分が立つという事など想像すらしていませんでした。そんな私に、この度は発表の機会を与えて頂き有難うございました。毎回、演者の先生方が発表する事で自分が一番勉強になったというのをよく耳にしていましたが、ようやくその意味がわかりました。自分の症例を何百回と見直すことにより、写真の角度一つ取っても稚拙さを感じ、手技の甘さも浮き彫りになりました。これは、発表しなければおそらくずっと気づけなかった事で、それに気づけた事が一番良かった事だと思います。

今回の経験を今後の臨床に活かしていきたいと思います。

Uke Dental Office　井関真良

「咬合高径の確保にインプラントを用いた補綴修復治療」

今年の4月に日本臨床歯科医学会に入会、7月に初めてステップアップミーティングに参加し、症例発表させて頂きましたことは、私にとって大変貴重な経験です。このような機会を頂きましたこと、メンバーの先生方に心より感謝申し上げます。発表後は、全国で活躍されている先生からアドバイスを頂き、お話しできることが大変嬉しく、たくさんの気づきとなりました。先輩方のようなかっこいい歯科医師を目指して、歯科臨床はもちろん、人間力も含めてステップアップしていきたいと思います。

藤沢歯科ペリオ・インプラントセンター　雨宮　啓

「エステティックエリアにおけるインプラントのリスクマネージメント」

ステップアップミーティングで発表させていただいたのは、今回で２回目になります。4年前の発表では、初めて大勢の先生方の前で発表する場だったため、とても緊張し、原稿を読みながら発表したのを覚えております。先日の発表では、緊張は前回よりも緩和しており、原稿も読まずに発表できました。また、症例発表にあたり、改めて資料を見返すことにより見えてくる問題点や、諸先生方に見ていただき新たに見えてくる問題点や治療手技の問題点などに気づく事ができました。準備を含め、大変でしたが自分の臨床を客観的に判断していただき、日本臨床歯科医学会の顧問の理事である寺西先生のお言葉を借りると、改善できる事で「出来た」と自分で思っていた手技を「出来ている」に変化させる良い機会だと思いました。また、機会があれば発表したいと思います。

荻窪ツイン歯科医院 町田真吾

東京SJCDテクニシャンミーティング

2018.9.2 御茶ノ水ソラシティーカンファレンスセンター

さる9月2日（日）、御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターにて「２０１８年度　東京SJCDテクニシャンミーティング」が開催された。今回も７０名余りが参集する盛会となった。

「今の職場と実家の技工所での効率面における作業工程の比較」
小竹脩介　（株）Smile exchange
技工物の受注から納品までを通して、それぞれの作業の時間効率に着目したプレゼンを披露していただいた。ご実家の技工所と様効率化がなされたSmaile exchangeでの仕事内容を比較し、機材の導入や様々な工夫を計ることによって大幅な時間短縮が得られるとことを示した。ただしそこには導入コストや仕事の内容、経営方針など総合的な判断が必要であるとのことであった。

作業用模型の製作「ジロフォーム」を使用した模型精度の向上と効率化
佐々木一樹　（株）Smile exchange
模型製作に置いてジロフォームシステムを導入することで模型精度の向上と作業の効率化
が得られることを実際の作業手順に沿ってご説明いただいた。CAD/CAMが普及し模型レスで補綴物製作が可能となった現在でもまだまだ石膏模型の必要性は高いとし、また、歯科技工士の人手不足が深刻化している昨今、作業時間の短縮と模型精度の向上により模型の付加価値を高めることが必要であると締めくくられた。

「耐火模型、セットアップ模型の製作」
鈴木健太　（株）Smile exchange
技工物の製作に欠かせない耐火模型とセットアップ模型の製作手順を実際の作業工程を示しながらご説明いただいた。実際の作業の中で模型の精度を保つための細やかな注意点や過去の失敗などを例に挙げ、わかりやすく丁寧なお話をいただいた。

「LiSi Pressとemaxの比較検証」
権和加子　（株）Smile exchange
２ケイ酸リチウム系のLiSi Pressとe.maxを比較し、それぞれにどの様な特徴があるかを検討された。その中で今回は特に光学的特性にの着目し、実際に医院で患者口腔内に指摘した状態を比較。形成範囲がエナメル質に限局していればe.max、象牙質に及ぶのであればLiSi Pressが有効であると新たな選択基準を示された。

「形態修正用ジグについて　審美修復治療における歯科技工士としての関わり合い方」
田頭朝子　　加部歯科医院
上顎前歯部ラミネートベニア修復のケースを例に挙げ、形態修正用ジグについて再考、歯科医師との連携について考察された。発表の中では歯牙の形成される歯面、1面ごとにジグを用意することで形態修正用ジグの再現性を高める工夫を紹介された。

「インスタントカスタムシェードガイドを用いた一症例」
平島真悟　　ウエマツ歯科医院
市販のシェードガイドでは対応しきれないケースをチェアサイドでカスタムシェードガイドを作成しシェードマッチングを得たケースを発表された。ケースでは日本人特有の赤みの強い歯牙に対応したシェードマッチングの様子をステップごとに紹介し、各ステップの工夫や反省点をご説明いただいた。

「日常臨床でのPFZ修復～PFM修復を経て～」
堀田一正　　おざわクリニック
補綴物の色調情報に関して、アナログ的な印刷物での調整からPC上での作業への変遷をご自身のケースと共に紹介していただいた。また歯牙の色調に影響を与える要素として撮影時の歯牙の乾燥や、セット時のセメントの色についても言及され大きな失敗を避けるための工夫をお話いただいた。

「TRIOSを使った補綴の進め方とCAM機の現状」
片野潤　　原宿補綴研究所
昨今話題のフルデジタルにおける技工の現状得られるメリットとデメリットについて発表された。実際のPC場での作業動画やご自身のデスク周りのツールを紹介しながらデジタル機器とどの様に付き合いそのメリットを享受するかという点で様々な視点からお話をいただいた。

「残存歯との調和、自然観を意識した上顎中切歯審美症例」
片川紘輔　　Sway Dental Labo
上顎中切歯の審美修復症例を例に挙げ、歯牙の形態と色調の再現性を高める様々な工夫について発表。特に色調の調整についてはシェードガイドは同じメーカーのものであっても
色調が微妙に違い安定しないことがあるとされ、グレーカードを使用して色調の再現性を高める工夫を紹介された。

「インプラント上部構造の形態を技工士サイドから考察する」
鈴木和之　　VIVO Dental Studio
下顎大臼歯のインプラント上部構造の製作を例に挙げ、インプラントプラットフォームから歯冠までのそれぞれに付与する形態の意図を技工サイドから考察された。コンクルージョンではフルジルコニアの登場で簡単に壊れなくなったからこそ細心の注意が必要とし、また、デジタルデバイスの普及が目ざましいがまだまだアナログ技工の必要性と重要性は高いと締めくくられた。

１５caseのプレゼンテーションが２日間に渡って実施された

第2回日本臨床歯科医学会
夏季学術大会・総会

日時：2018年7月１４日（土）15日（日）
会場：石川県立音楽堂　邦楽ホール
大会長：中山大蔵（北陸SJCD会長）

日本各地から約600人が参集

2018年７月１４日（土）・15日（日）、「第2回日本臨床歯科医学会・夏季学術大会総会」が開催された。
会場となった石川県立音楽堂には全国各地から600人の参加者が集まった。
隔年開催される旧SJCDインターナショナル合同例会から通算し今回で7回目となった。
「久しぶり！」「元気だった？！」と会場では旧友との再会を喜ぶ声が聞かれ、ハグを交わす光景も見られた。

第2回日本臨床歯科医学会　夏季学術大会

第7回合同例会プレゼンテーション

コンベンショナルレストレーション

「カリエスリスクが高い若年者のAsymmetryな歯列不正に対してMIを考慮した包括的アプローチ」　（飯干光男　水俣ひかり歯科クリニック　熊本支部）

「咬合崩壊を伴う患者に対して矯正学的分析を応用した咬合再構成」　（中村航也　中村歯科医院　北陸支部）

「安定した下顎位獲得に苦慮した咬合再構成」　（吉田茂治　パークサイドダンタルオフィス　東京支部）

「不適切な歯の対向関係に対し補綴的なアプローチにより咬合再構成を行った症例」　（鈴木直樹　すずき歯科クリニック　京都支部）

「『みること』で得られるもの」　（河野通史　いとう歯科クリニック　新潟支部）

審美修復治療

「Recovery of previous interdisciplinary approach -protho and ortho-」　（山脇将貴　山脇歯科医院　大阪支部）

「Midlineについて深慮した審美修復についての考察」　（大井手和久　あいおい通り歯科クリニック　広島支部）

「ブラキサー患者に対するMIによる審美的アプローチ」　（鈴木祐　大岸歯科クリニック　東北支部）

「Life stage と予知性を考慮した審美修復治療」　（中島圭治　中島歯科医院　福岡支部）

「フルマウスリコンストラクションにおけるシークエンシャルトリートメントプランニングの実践」　（寺坂弘司　てらさか歯科医院　四国支部）

インプラント治療

「Immediate Implant Placement in Posterior Zone:Surgical and Prosthetic Strategies for Avoiding Peri-implantitis」　（下地恒太郎　オキナワデンタルオフィス　福岡支部）

「広汎型侵襲性歯周炎患者におけるインプラント治療」　（山口文誉　山口歯科医院　東京支部）

「重度咬合崩壊症例におけるインプラント治療のマネージメント」　（須田善行　さっぽろ石山通り歯科　北海道支部）

「Implant Supported Partial Denture」　（池村仁克　カメリア歯科矯正クリニック　名古屋支部）

「歯周病患者におけるフルマウスリコンストラクション症例」　（谷尾和正　医療法人タニオ歯科クリニック　大阪支部）

-各賞受賞者-

1位
Dr.山口文誉
（東京支部）

2位
Dr.谷尾和正
（大阪支部）

3位
Dr.中島圭治
（福岡支部）

特別賞
Dr.吉田茂治
（東京支部）

特別講演

『咬合治療における長期安定性へのパラファンクションの関与を経過観察する』

Dr. Choi Dae Hoon
SKCD会長

SKCDはDr.Masaaki HondaとDr.Ito YusakuをDirectorとし、2003年から研修会を開催、Dr.Raymond L Kimの教えを基軸とした、歯科医師会員数80人の韓国study group。
“Force control”と”Inflamation control”を通して患者さんの歯科治療結果の永続性を観察しながら、非生理的機能運動への対応の重要性を考えて、症例にあたっていると語っていた。

座長を務める本田正明副理事長

懇親会

お楽しみの懇親会が第1日目の夕刻、ホテル金沢にて開催された。日中の白熱したケースプレゼンテーションの緊張感と異なり、リラックスした雰囲気の中、大勢の参加者で盛大に行われた。

友人との束の間の時間に笑顔

熱のこもった”歌と踊り”

芸妓さんの芸を堪能

ゴルフコンペ

第2回日本臨床歯科医学会夏季学術大会 実行委員（北陸支部）

合同例会開催にあたって準備にご尽力いただきました、中山大蔵大会長、小坂井満実行委員長をはじめ北陸支部の実行委員、関係者の皆さんに誌面を借りて心より感謝と敬意を表したい。
お疲れ様でございました。

第3回日本臨床歯科医学会夏季学術大会

日時：2020年11月20日（金）～22日（日）
会場：広島国際会議場　フェニックスホール
担当支部：広島支部

文責：遠藤元気、高島浩二（広報委員会）

2018年度 東京SJCD ハイジニストミーテイング

2018年12月2日（日）お茶の水ソラシティ

原田和彦会長

2018年度 東京SJCDハイジニストミーティングが御茶ノ水ソラシティ（東京都千代田区）にて開催され、会場は大勢の歯科衛生士(以下DH略)で埋め尽くされた。原田和彦会長が開会の挨拶をされ、改めてDHの仕事についてのお話があった。「同じ医療畑の看護師と同等であるが、それ以上に診査、診断や治療計画、メンテナンスに至るまで、全体を通して患者と関わっていく、言わば歯科医師(以下Dr.略)と同じ仕事内容と責任とやり甲斐が生まれる仕事。書物のみのアップデートだけではなく、この様な会で著名な先生方のお話をその場で聞いて体感し、日々の診療に繋げていって欲しい。今日は一日楽しく学んで下さい」というお言葉で本会が始まった。

長谷川義昭先生

インサービストレーニングには ”チーム医療として日本一を誇る”と名高い、長谷川義昭先生（歯科医師/日本橋人形町開業）・川崎律子先生(歯科衛生士)がご登壇され『チームで実践する歯周治療～Team Approach Periodontal Treatment～』と題されたテーマに沿ってご講演頂いた。「今日は一日歯周治療についてお伝えしたい」と長谷川先生。卒業してから30年 ”歯周治療とはこうすべきではないだろうか？”と、今までの反省を踏まえた、自身の考察をまとめてこられたとのこと。”歯周基本治療をチーム医療として考えた時、臨床検査値を活用し、まずは戦略的に診断していく必要がある”と示し、最新の病因論から実践する歯周病治療として、様々な臨床検査を行い原因となる病体を理解した上で歯周治療を始め、メンテナンスを通じてバイオフィルムを除去し健康を維持するというお話しをされた。

そして、臨床検査を絡めた咬合性外傷や重度歯周病、インプラント治療等のケースのお話では、細菌検査をベースにデンタルカンファレンスを行うことを勧められており、戦略的歯周基本治療を行う中で抗生物質を処方する際には、臨床検査という科学的根拠に基づいて処方回数を提示出来るので、抗生物質をとりあえず患者に服用してもらうこともなく、思い込みでペリオフィール等の抗生剤を歯周ポケット内に注入することもないと強調された。
また、患者自身が歯周病のリスク因子である肥満や糖尿病を患っていないか宿主因子にも目を向け、健康状態の把握や栄養指導を行うことの大切さもお話しされた。長期治療における患者との確実な信頼関係を構築する上でも、しっかりと数値化された検査データを提示していくことは必要不可欠である。どんな人が（思い・ニーズ・性格・骨格・病態・リスク・全身疾患）いつ（どの時点で）どのようなゴールにむけて（最終治療形態）どのような処置（歯周基本治療・歯周外科・補綴修復）をするのかをしっかりと見極め、無駄のない適切な診査が大切なのだと強く臨床検査の必要性をお話しされた。

川崎律子先生

講演の中盤から後半にかけては、2017年に米国歯周病学会(AAP)欧州歯周病学会（EPP）等が歯周病疾患の分類を改変したことを考慮して歯周治療を進めたケースや、Surgical Treatment planningを進める際に川崎先生のアイデアが採用されたお話、また長谷川先生が自身の過去の治療から今後を考えるという話を基に、歯周治療を行う際には目標と設定を決めてから取り掛かる様にと会場に投げかけられ、受講生は熱心に耳を傾けていた。

その後”歯周組織再生療法における臨床的評価”という話の流れで、骨移植材やCTに対する知識をDHにも求められていることや、”再生療法におけるクリーピング効果”について長谷川先生が川崎先生に感謝している症例のお話、続けて超高齢化社会における都市型開業医の限界につき患者がやむをえず転医した場合、今後の歯科医院間の連携の重要性へと多岐に渡りお話された。そして最後に長谷川先生から「改めて歯周治療において臨床検査を定着させることはとても大切であり、術後管理としてのDHの力も当然必要となってくる。もし臨床検査を導入出来ないのであれば、炎症所見を捉えられる様になることや、出血が強く排膿がある場合は急性炎症が強いのでプロービングはしないなど、出来ることからやって欲しい。そして院内臨床診断を活用しデンタルカンファレンスを充実させたチーム医療を作り、臨床検査値が読め歯周炎の治癒形態を理解した歯科衛生士になって長くお仕事を続けて欲しい」と熱いお言葉で締め、大変素晴らしい講演内容であった。

植村美穂 氏

ハイジニストミーティング会員発表として、座長に富澤季絵 氏（原宿デンタルオフィス）発表者に歯科衛生士の植村美穂 氏（坂本歯科医院）が登壇された。テーマは『補綴修復処置の長期安定を求めて　歯科衛生士の目線から』。「インプラントやオールセラミックなど様々な補綴物が入っている口腔内において、セルフケアとプロフェッショナルケアは果たして同じでいいのか？」とスタートした。各患者の口腔内環境を考慮してDr.や歯科技工士(以下D.T略)が作成した補綴物を自身のプロフェッショナルケアや患者に対するTBIで台無しにしないよう、常に歯周組織をイメージしてお仕事をされているとお話しされた。

そして Dr.、D.T、D.H皆の考えを共有することが大事だと続けられ、その中で歯科に恐怖心がある患者との信頼関係を築けたケースをお話しされた。歯周治療を行う際、PCR法で指数を示し情報の明視化を行った所、患者のモチベーションを上げることに繋がり結果、審美修復治療を望んでもらえるまでになったとのこと。このケースの様に、口腔内だけでなく患者の心のケアもすることが出来たと感じた時が衛生士冥利に尽きるのだとお話された。またSPTにおいては、歯周ポケットの数値のみならず歯周組織の変化も見逃さない様、視診の重要性も説明された。

富澤季絵 氏

またプロフェッショナルケアにスポットを当てたお話では、オールセラミックなどの補綴物の種類や患者の歯肉の厚みを把握した上でメンテナンスやTBIの内容も変えて行なうスタイルをとっておられ、まさに各患者に寄り添ったオーダーメイドのプロフェッショナルケアといえる。
最後に「日々の診療は失敗や成功の繰り返し。歯肉や補綴物の長期安定を図る為には記録を撮って口腔内の経過をよく観察する必要がある。過去のデータを基に未来を予測し、その時々に応じた説明が出来ること。またそれに対応出来る知識や技術をアップデートし続ける事が、プロの仕事である」と述べられた。

質疑応答では沢山の質問が寄せられ、より活発なディスカッションとなり、時間制限で質問漏れした内容は講演終了後の懇親会に持ち越される程の盛況振りであった。

閉会の挨拶に「今日は、熱い１日だった！」と、開口一番に言われた岡口先生。 四年前、長谷川先生と川崎先生にSJCDハイジニストミーティングでの講演を依頼してようやく実現した本講演であったとのこと。

岡口守雄先生

最後に「講演内で実際に使ってみたいと思える臨床検査があったのなら、たとえDr.と摩擦し合うことになっても導入してもらえる様、患者さん目線に立って何度でもプレゼンしてみて下さい」とお話しされた。
その後の懇親会の中では受講者から演者への質問は続き、”禁煙指導はどのように行われているのか？”、”Dr.と上手くコミニュケーションを取る為にはどの様な事をされているのか？” などの質問を長谷川先生や川崎先生にお答えいただくなど、懇親会の場だからこそ聞ける質疑応答もあり、とても楽しく充実した時間を過ごす事が出来た。

懇親会にて

なお、次回2019年度ハイジニストミーティングは同会場で開催予定、日時詳細はSJCDのホームページから、活動スケジュールにて確認お願いします。

http://www.sjcd.info

東京SJCD 会員　歯科衛生士
長田房子

日本臨床歯科医学会東京支部
2018年度　第2回ステップアップミーティング

2019年2月17日（日）
お茶の水ソラシティカンファレンスセンター

2019年2月17日（日）、お茶の水ソラシティ（東京都千代田区）にて第2回ステップアップミーティングが開催された。本会は、はじめに原田和彦先生（東京支部会長、東京都開業）による挨拶の後、4名の先生の発表が行われた。午前中は歯周病治療をテーマにプレセッションが行われ、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士が多数参加し、本会も増席が必要なほどであった。

顎関節症を伴う欠損歯列症例に対してテレスコープ義歯を用いた咬合再構成
稲葉歯科医院　　小西浩介先生

５９歳女性、咀嚼障害および顎機能障害を主訴。顎口腔系の診査診断そ行い機能改善を図った咬合構成の症例であった。臼歯部の咬合支持が消失し、顎機能障害を生じ歯列形態と舌の不調和や舌の位置不正、異常嚥下障害が原因で咬合破壊が起こった。失活歯が多いなか予知性の高い義歯設計を計画した。上顎は少数歯残存でレジデンツテレスコープ、下顎は舌房も考慮した臼歯配列でコーヌステレスコープによる義歯にて治療計画を立てた。顎関節症を伴う欠損歯列に可撤性義歯を用いる条件の中、顎位や歯列、支台歯を整えることで顎口腔系の機能回復を図った症例で顎位の決定に様々なことを行なったとても興味深発表であった。

再生治療を長期に安定させる為に大切な要因を考える
医療法人伸宏会　田治米歯科クリニック　　田治米元信先生

歯茎からの出血を主訴に来院。歯周組織再生療法と咬合調整によって長期安定している症例であった。再生治療の基本的なところから論文ベースでの考察、細菌と咬合、力のコントロールが成功には鍵になる。歯周治療において長期安定を行う為にはバクテリアコントロールは位相差顕微鏡、細菌検査。歯周組織の安定には歯周再生治療、SPT、エムドゲイン。咬合の安定はインプラントを含めた全体治療。歯牙の位置異常は矯正治療。パラファンクションにはスプリント治療。最後に歯科衛生士が納得できる説明をし、また患者が衛生士や歯科医師を信頼してくれてるかがうまくいった秘訣ではないかとまとめられた。

全顎的な歯周炎（Stage4.GradeC）を伴う包括的治療の一症例
デンタルクリニックアレーズ銀座　　中村茂人先生

2017年AAPで歯周炎の分類が変更された。今回は、重度歯周炎患者に対して矯正治療により咬合の改善、再生療法により天然歯の保存、インプラントを用いて咬合再構成を行なった症例であった。患者は一本でも歯を残したいと希望のもと、初期治療よりハイジーンコントロールを徹底し、動揺歯のコントロールののち歯周外科処置にて切除療法、再生療法を行なった。再評価を繰り返し患者に寄り添い治療計画を改善しワックスアップにより具現化しプロビジョナルレストレーションに置き換えていた。顎位の安定とともに動揺が軽減し上顎前歯部にGBRを伴うインプラント埋入を行いファイナルレストレーションに移行された。7年の治療期間がかかったが、丁寧に再評価し論文ベースで各ステップ石橋を叩いて治療をした素晴らしい発表であった。

歯周組織再生療法の成功に繋がるマイクロスコープを使用したFlap design
山口歯科医院　　山口文誉先生

教育講演として合同例会でアワードを受賞された山口文誉先生にマイクロスコープを使用することで変化してきたFlap designによる変遷、その中でもMISTの術式について動画を用いて細かい点までの解説、最後に2017年に新しく変更になった歯周疾患の分類についての講演が行われた。歯周疾患の中でも垂直整骨欠損に対する再生療法の解説から始まった。Primary closureはマイクロスコープを使うことにより向上し、術式もミニマムに変更された。再生療法はCBCTにより骨欠損の形態が把握できFlap designが決定される。MISTの細かい解説ののち歯周疾患の分類の変更について解説された。歯周炎のステージ分類、グレード分類、インプラント周囲粘膜炎の診断、用語の変更、バイオタイプの追加、歯肉退縮の分類がCaioになり、咬合性外傷に矯正力も追加、エンドペリオの分類、が変更追加とわかりやすく解説いただいた。

Step Up Meetingについて

「より参加しやすいステップアップミーティングになります」

初めてでも、レベルアップを考えている貴方にもチャンス到来です！

- 年２回開催
- 年齢、経験問わず、どなたでも発表しやすい
- ２０分～３０分の発表
- SJCDにおける診査・診断・治療計画を習得
- 会員発表の後は、ベテランDrのプレゼンテーションも
- 勉強会の後は、懇親会で親睦を深める

委員会メンバー
理事（五十音順）
大河原純也、加部聡一、新藤有道、
瀬戸延泰、西山英史、松本邦夫、松尾幸一

委員（五十音順）
伊藤努、構義徳、河合竜志、川原淳、栗原一雄、
坂本貞樹、髙山祐輔、中村茂人、長谷川幸生、林丈裕、武川泰久、李昌弘、
山﨑治、吉田茂治　綿引淳一

さる2月17日、お茶の水ソラシティーカンファレンスセンターにて2018年度第2回東京SJCDステップアップミーティングが開催されました。

午前中の部では恒例の全員参加型症例検討グループディスカッションとして「Pre Session」が『歯周病について再考しよう!! 』をテーマに、『歯周病の見方』と『治療計画』を中心にディスカッションが行われました。

午後の本会における会員発表では3名の先生が発表され、最後には「歯周組織再生療法成功に繋がるマイクロスコープを使用した Flap design 」と題し、山口文誉先生によるプレゼンテーションが行われ、マイクロスコープを用いた歯周組織再生療法 のFlap designの分類、術式等のポイントをわかりやすくご講演いただきました。

発表希望、お問い合わせは東京SJCD事務局まで：TEL&FAX03-3400-3482

「顎関節症を伴う欠損歯列症例に対してテレスコープ義歯を用いた咬合再構成」

この度、東京SJCDステップアップミーティング委員会の先生方のおかげさまで、発表させていただく機会を与えていただきました。私自身、SJCDに参加したことが初めてでしたが、以前より数々の著名な先生を通じてSJCDに参加して勉強してみたいと思っていました。当日の発表では、様々なご意見やご指導いただきましたことで、大変勉強になりました。また、当日の発表まで、東京SJCDの吉田茂治先生が発表資料を何度も一緒にご確認くださり、細かいところまでご指摘やご指導いただいたことが、何より自分自身のステップアップに繋がったと思います。当日まで準備で大変な部分もありましたが、振りかえってみると、自分が得たものが非常に大きく感謝しかありません。これからもSJCDで多くのことを学び、多くの先生方から刺激をいただき、自分の成長に繋げていきたいと思います。この度は、発表させていただきまして誠にありがとうございました。

稲葉歯科医院　小西 浩介

「歯周治療を長期に安定させる為に大切な要因を考える」

初めてステップアップミーティングで発表する機会をいただきありがとうございました。2010年にはじめて当時のSJCDを受講し、例会などでは毎回聴講の立場でありましたが、発表させていただくにあたり自分自身が一番勉強になりました。今回補綴での発表ではなく、ペリオの発表をさせていただきました。他の演者の先生方にも恵まれ、歯周病治療の奥深さを感じました。発表内容としては13年経過の症例を提示させていただき発表致しましたが、発表後に色々アドバイスをいただいたり、ディスカッションできたことはSJCDの先生方の層の厚さと、暖かさを感じることができました。人に何かを伝えるためにはいかに基礎資料がどれだけ重要かということは、意識しながら臨床に取り組み、今後の臨床歯科医学会にて少しでも貢献できるように努力していきたいと考えております。

田治米歯科医院　田治米元信

「全顎的な歯周炎(Stage4・Grade C)を伴う包括的治療の一症例」

今回、ステップアップミーティングで発表させていただき大変感謝申し上げます。SJCDでの発表は、細かな点までご指導いただけるため、緊張感とともに意気込みを持って準備に向かうことができました。そして、症例発表をするにあたって真剣に症例と向き合って考察し新たにたくさんのことにき気づきました。資料どりの大切さ、患者さん一人一人に向き合うことの難しさ、そして基本が如何に大切かを痛感し、今後に生かして参りたいと思います。これからも多くのことを学ばさせていただけると嬉しいです。また、いつもご指導いただけている、諸先輩がたにこの場をお借りして御礼申し上げます。

デンタルクリニックアレーズ銀座 中村茂人

２０１８年度　日本臨床歯科医学会東京支部　第3回例会

2019年3月3日（日）　都市センターホテル

2019年3月3日（日）都市センターホテル（東京都千代田区）にて第三回例会が開催された。多くの会員が集まり、午前は今井俊広先生（鳥取県米子市開業）による教育講演が行われた。

教育講演

臨床咬合　[40年ぶれない軸]

今井歯科クリニック　　今井俊広先生

臨床咬合[40年ぶれない軸]をテーマに講演された。まずは、難治性咬合感覚異常（症）と発症契機は補綴治療によるものが８割以上である。診断分析をしてから治療が大切である。顎口腔系が長期安定を保つ為の指標は・顎関節、周囲組織の安定・神経筋機構の調和・アンテリアガイダンスの確立・適正な咬合口径でのバーティカルストップの確立とおっしゃった。三つの症例を通して、詳細を細かく解説を行った。早期接触により下顎位が偏位しているケースやアンテリアガイダンスが確立していないケースなどを提示し長期安定を保つための指標を一つずつ解決し10年以上の安定をしているケースであった。Lyte&Skurowの修復の分類のclassⅢ、Ⅳの咬合再構成で必要な力のコントロールを模索してきた。現在は欠損部、保存困難な歯はインプラントに置き換えることができる。しかし顎口腔系で加わる力は変わらない。インプラントでしっかり噛めるだけにより認識しなければいけないのが力（咬合）と考えていると述べている。
後半は咬合治療の臨床的観点から閉塞性睡眠時無呼吸症候群（OSAS)を考察された。近年、OSASは咬合と無関係ではないため、注目している。疫学的見地から逆流性食道炎、酸素不足より心筋梗塞。脳梗塞、高血圧、糖尿病、日中の眠気、大脳機能不全、ストレス、うつなどとの関連がある。原因としては、気道を狭窄することで起こる。その要因としては舌による圧迫、女性ホルモン減少や肥満などで軟組織よる圧迫が挙げられる。治療法に対しては、第一選択は重度の場合はCPAPだが軽度の場合は口腔内装置（OA)、第二選択は手術となる。上気道閉塞をきたす形態学的因子としていくつか挙げられるが頭蓋顎顔面骨の因子として上顎骨の劣成長、下顎骨の劣成長、下顎の後方偏位、歯列の狭窄、骨の増大に関しては改善できる余地がある。最後に咬合が上気道にアプローチできること。近年Airway-Prosthodonticsという言葉が言われるようになってきている。口腔に隣接する気道をも考慮した補綴や矯正治療で、それは下顎位、生理的な咬合と口腔内容量の確保が重要。最後に歯科臨床医も気道Airwayを理解しなければいけない時代になったと締めくくられた。

一般講演

午後からは3名の会員の先生による一般講演が行われた。

プロビジョナルレストレーションの再評価にて下顎位を決定した一例
医療法人社団同仁会　ワタナベ歯科医院　　島松博先生

摂食障害による酸蝕症により咬合崩壊してしまった口腔内を治療するため、ワックスアップにより下顎位を設定しプロビジョナルレストレーションにて再評価を行い、是正しながらアプローチし最終補綴物に生かした症例であった。歯牙酸蝕症の診断基準や咬合の診査を行い咬合崩壊の状態からワックスアップをもとにプロビジョナルレストレーションを作成し咬合の安定を図り、炎症のコントロールを行ったのち口腔内を精査しながら再評価を行った。セカンドステージでは再度ワックスアップを行いクロスマウントし咬合の再評価を行った。プロビジョナルレストレーションのウェアを認め臼歯が咬合しない状態になったので臼歯をメタルに置き換え再評価を行った。プロビジョナルレストレーションを最終補綴に移行していた。プロビジョナルレストレーションにより下顎位の変化をしっかり考察し、各ステップで一つ一つの問題点に対し解決していく丁寧な治療経過をたどっておりとても興味のある症例であった。

上下左右的に差がある歯列を機能的、審美的に咬合再構成した症例
要町デンタルクリニック　　榊原塁先生

成長発育による下顎枝の長さの左右差や歯列弓の上下左右差がある歯列でパラファンクションのある４１歳男性に対し咬合再構成をこなった症例を発表された。歯科的既往歴や口腔内診査、患者固有の問題点の抽出により原因を紐解き、臼歯部欠損部はインプラント、下顎前歯部の限局矯正を行い咬合再構成を行う治療計画を立案した。各々目的の違う４回のプロビジョナルレストレーションにより再評価を行った。下顎枝の差のある状態で歯列を左右対称にすることにより生じた問題点に気づき、その都度形態修正しファイナルに移行する。非常に下顎位の安定の獲得に苦労しており、その手法などのディスカッションも活発に行われた。

一般講演

Interdisciplinary Approach for Improved Esthetic and Functional Results
NAKANO DENTAL 中野忠彦先生

包括的治療により審美的かつ機能的な結果を得た４３歳女性の症例を発表された。上顎前歯の唇側傾斜、下顎骨の後方位と下顎前歯の舌側傾斜により開咬、叢生を伴うAngle Class Ⅱの症例。顔貌、顎位、歯列等のマクロの視点、MIのコンセプトに沿ったミクロの視点でフォーカスされ、ポイントは顎位、正中線、Gingival Displayをあげ全顎矯正による咬合再構成を行い、前歯部に歯周形成外科によりジンジバルレベルを整え、ラミネートベニアとクラウンでの治療計画を立案された。矯正治療、Surgical Crown Lengthening、Ridge Augmentation、Root Coverage Procedure、を駆使し包括的に治療されていた。補綴に関してはラミネートベニアや臼歯部パーシャルベニアを用いMIコンセプトに則った、精度の高い治療が印象的であった。

生体と調和した調和した補綴物を長期的に維持する上で「咬合」が重要となる。この咬合をテーマに教育講演、3名の一般講演を行い活発なディスカッションもあり、盛況のうちに幕が閉じられた。

編集後記

SJCD Journal -Tokyo 2018-　本年度は学会広報誌として、例会や分科会のレポートを中心に構成いたしました。原田会長となってからは紙媒体からデジタル媒体へ大きくシフトをして時期であります。メンバーも色々と模索しながら、非常にやりがいのある仕事を任せていただいた原田会長には大変感謝をしております。2019年度からは新体制にて編集するメンバーも一新となりますが、今後も会員に有益な情報を伝えられるようコンテンツを模索していければと考えております。今後も年次で発行していきますので、様々な御意見・御感想をいただければ幸いです。

日本臨床歯科医学会東京支部　学術広報渉外総務委員会・富施博介

SJCD Journal　-Tokyo2018-　（2019年6月2日発行）

発行人	原田和彦（日本臨床歯科医学会　東京支部長）
編集人	植松厚夫　北原信也　皆川仁　富施博介 （学術広報総務渉外担当理事）
編集	小島将司　高島浩二　中村茂人　中村雅之 富施博介　山口宜伸　山﨑治　吉田茂治　中野忠彦 徳永耕一郎　遠藤元気　滝沢卓也　山口文誉
協力	東京SJCD事務局　（株）ブランディングテクノロジー